

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502371		
法人名	株式会社 香島コンサルタント		
事業所名	グループホーム コマクサの家 (1階)		
所在地	札幌市豊平区月寒西1条2丁目1番35号		
自己評価作成日	平成23年10月21日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中での認知症ケアの中核的相談機関を目指しております。専門的知識を研鑽し、サービスの質向上を目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502371&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、11月で開設から8年目を迎えました。開設時に作り上げた理念「その人らしく自立した生活の継続」に基づいたケアサービスの提供に向けて、管理者・職員は一体となって、その人らしい暮らしが営めるよう自立支援に取り組み、利用者の状況把握を深め、一人ひとりを支えながら、意欲を引き出しています。特に毎日の食事作りでは、アイランド方式のキッチンを活用して、準備から調理・後片付けまで、利用者と職員が一緒に行い、和やかに食卓を囲み、楽しみながら役割を担っています。地域との交流も、町内の回覧板にてコマクサ通信を回覧し、ホームへの理解と協力を仰ぐなど、積極的に取り組んでおり、恒例のホーム主催の夏祭りには、多くの地域住民の方々の参加を頂くなど、毎年の楽しみとなり、交流を深めています。管理者は、行政や地域と連携し、単独ホームの枠を超えて、地域全体の福祉の充実に向けたネットワークの構築に力を注いでいます。また、職員育成にも取り組み、積極的に研修への参加や資格取得を促し、利用者のより良い暮らしを実現するため、サービスの質の向上に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に豊かな暮らしやすい地域社会づくりを目指すこと、明記し毎日唱和している。	開設時に全職員で協議し作り上げた理念は、朝礼時に唱和し共有を図るとともに、毎月ケア目標を掲げ、前月の反省と今月目標に向けて意識確認を行い、サービスに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加したり、ホーム行事に町内会も参加したりと、社会資源の活用を積極的に行っている。	町内会に加入し、回覧板にてコマクサ通信を回覧し、ホームへの理解と啓発活動に取り組んでいます。ホームの夏祭りには、多数の住民の方々の参加を頂き、恒例行事として喜ばれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌などで認知症ケアに関する話題を発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報提供だけではなく、町内からの疑問質問意見を取り入れている。	推進会議は奇数月に開催しています。町内会役員はじめ家族に加えて、今年には行政の参加も頂き、ホームの運営状況や行事予定などを報告し、情報の共有を図っています。抽出された課題について、率直な意見交換を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは連携を取り連絡報告相談を行っている。	管理者は市や区主催の管理者会議に参加し、組織間での情報の共有や課題解決の協議に努めています。行政担当者とは、介護保険や業務上で生じた課題等について、随時相談し、協働が図られています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修において、身体拘束禁止を説明し、日々自分がされていやなことをしないと視点を意識している。また、玄関の施錠については施錠するが行きたい時には拘束する事無く自由に入出りできるよう努めている。	マニュアルを作成し、職員採用時の他、定期的に内部研修を行い、身体拘束の弊害について、理解を深めています。ホーム前の道路は交通量が多いため、危険性を考慮し、日中も施錠（外からは入れません）していますが、自由な暮らしを支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束などについて採用時において研修し理解を深めると共に、サービスの質向上に向け、ユニット内で見直しを随時行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	採用時研修カリキュラムにて研修機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明及び契約書内容について説明同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほか、日々利用者、家族の要望をとるべく確認している。	運営推進会議や来訪時に、家族からの意見や要望が聞き取れるように、雰囲気作りに努めています。毎月発行のコマサ通信と共に、個別の便りも添え、状況を報告し、家族の意向の聴取にも努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議を開催するなどし、職員意見を定期的に設けている。	各ユニットから出された職員の意見や提案は、リーダーから管理者に伝えられ、管理者は、法人本部で開催される毎月の管理者会議において、運営者に報告し、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入し職員の質向上及びモチベーション維持向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会を積極的に促し、費用については最大限法人にて支出するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人同士連携し、共同求人・共同での勉強会を開催実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から1カ月は集中してアセスメントを行いゆっくりと話せる時間帯を設けている。スタッフ全員で本人の思いを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族に要望を聞き、サービスに反映させられるようにし、かつ来訪時にも不安などを都度聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成時には本人及び家族の要望を取り入れ、優先順位を決めてサービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で常に人生の先輩であるという気持ちを持ち物事や調理を教わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の変化などの報告だけではなく支援者の一員であるとの側面も協力信頼の元支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していた美容院や近所のスーパーなどに継続して利用ができるよう支援している。	利用者の好きなコンサートやカラオケには職員が同行して楽しみ、懐かしい人の来訪には、職員が快く、もてなしています。馴染みの人や場所への訪問は、家族の協力を得て支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間以外でも体操や余暇活動以外での時間や他者とのかかわりを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後であっても広報誌の発送や家族からの相談を受けたり各種行事に参加していただいている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の様子や会話の中から思いや希望を知ろうとしている。	職員は利用者との対話の時間を持ち、思いや意向の把握に努め、気付きシートを活用して、職員間で情報を共有し、その人らしい暮らしが出来るように支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴から基本にし、サービス内容を検討している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることできそうなこと見極めたり、共有場所への誘いも併せてそれぞれにとっての日々過ごしやすさを探求している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや解決すべき課題についてカンファレンスにてスタッフ共有するとともに本人家族への話し合いを設けている。	利用者の担当職員はアセスメントをもとに、モニタリング、カンファレンスを行い、会議において全職員が検討し、家族の要望も伺いながら、リーダーが作成しています。3ヵ月毎に見直しています。	前回の課題項目でありましたが、利用者、家族の思いや意向を全て介護計画に盛り込むには、利用者一人ひとりの背景や生活歴など、内面を理解した上での作成が望まれます。引き続き、介護計画への理解を深めるために、職員の更なる研鑽に期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録など書く帳票類へ試みなど記載され情報共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人側だけではなく家族の思いにもそえるよう受容しお互いにとって信頼できる関係を意識している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きたい場所やしたいものについて把握に努め、その行き先などへの事前根回しなど個別に対応している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と協力し、他科受診となった場合などでも紹介所作成など抵抗無く受診が行えるよう思念している。	医療連携体制が整備されており、協力医による月1回の往診と看護職員の健康管理から、適切な医療を受けています。他科受診は家族対応で、受診ノートで情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の目と看護職の目がお互いに情報共有できるよう対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要情報の提供と、退院時には療養上の注意点など現状把握を行い住環境の整備も含めスムーズな支援に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向や家族の意向を考慮し必要な場合には支援方針の共有する。	医療連携に伴う対応指針を作成し、家族の同意を得ています。職員はターミナルケア研修を受け、看取りも経験しています。終末期には、主治医、看護師、家族と連携を図り対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフが不安に思っていることに対しての救命救急対応について随時研修を行い解消に向けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練は実施するとともに地域住民へのご協力を働きかけている。	消防署の指導の下、年2回昼夜を想定し避難訓練を行っています。スプリンクラーも設置し、定期設備点検も行ってはいますが、住民の方々の参加は高齢者が多く、訓練は見学に留まっています。	地域の高齢化に伴い、地域住民の方々の参加が少なく、困難な場合は、隣接している法人本部の職員の協力を得るなど、確実な避難誘導が出来るような対応策を検討し、実践的な訓練に期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフがきつい言動とならぬように日頃よりお互いに注意しようという支援方針を立てている。	利用者一人ひとりの尊厳に配慮した、言葉かけや支援が行えるように、職員間で確認し徹底を図っています。実習生を受け入れ、指導する立場にある職員は、常に配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人が答えを出せるよう選択肢を増やすように勤めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のタイミングで外出が出来るように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れなどについて毎朝確認しあい、自ら身だしなみが整えられるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は話題提供し楽しく食事ができるようにし、それぞれの役割で調理にも参加できる機会を作っている。	献立作成委員が、3ユニット合同のメニューを作成していますが、その時々利用者の嗜好を考慮したメニューに変更して、食事に変化を付けています。それぞれの利用者が準備に関わり、役割を担っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に形状を変えたりし提供している。水分状況については1400cc以上好みに合わせて飲用してしてもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のタイミングと個別に必要程度の支援を実施し口腔ケアを実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けの工夫をすることで排泄場所や排泄動作の一連理解できたり自立支援を努めている。	アセスメントシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、尊厳に配慮した声かけや誘導により、排泄の自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず個々に応じた運動や食品を考慮し日々検討している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人からの希望に添って入浴実施に努めている。浴槽の出入りが困難な方に関してはリフト浴を病院と連携し活用したりしている。	週2回以上の入浴を目途として、利用者の体調や意向に沿った入浴支援が行われています。病院の協力による、リフト浴も活用しています。入浴剤も使用し、気分転換を図っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムにあわせて体調を考慮し対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が本人の薬種類を把握し、情報の共有を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理参加することでの役割や本人の趣味活動機会が得られるよう環境面からも支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の聞き取りで外出希望を聞きだしたり司式的に取り組んでいる。全体行事については季節感を得られるよう計画している。	行事委員により、年間計画を立て、季節に応じて戸外に出る機会を支援しています。日常的には、散歩や買い物に出かけ、映画やコンサート等、個性も取り入れ、気分転換に繋がる支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の私物を購入するときなどは自身での支払いを行ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望で電話や手紙などできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節のものをスタッフと共に装飾することで共通の話題にもなり穏やかな環境が作られている。	3階建てのホームは、各フロア共に開放感が有り、利用者一人ひとり自由に寛げる空間となっています。キッチンアイランド方式を取り入れ、職員と利用者が会話しながら、食事の準備が出来、また、図書コーナーでは読書をするなど、居心地良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有・セミ・プライベートスペースを考慮し、居場所の把握と変化に気を配り、過ごしやすい環境となるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた家具や化粧台など各自で持ち込んで使用している。	居室には使い慣れた家具や生活必需品、趣味の刺繍道具等が持ち込まれ、完成したタペストリーを壁に飾る等、それぞれに個性豊かな居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面のアセスメントを実施し、事故時など環境面に関する配慮と共にできるための工夫を施している。		